

「茅野市 DX 基本構想（案）」の
パブリックコメントにお寄せいただいたご意見と市の考え方

「茅野市 DX 基本構想（案）」に係るパブリックコメントを実施したところ、下記のとおり貴重なご意見をいただきました。これらのご意見について、要約・集約し、それらに対する市の考え方をまとめましたので、公表いたします。なお、案と直接関係のないと考えられるご意見については、公表していません。

記

○パブリックコメントの実施状況

1 意見の募集期間	2 意見の提出者数と件数		3 意見の提出方法別人数				
	提出者	件数	メール	郵送	FAX	持参	計
令和4年4月18日（月） ～5月17日（火）	11名	76件	11名				11名

※同一意見提出者から複数項目にわたるご意見をいただいている場合があるため、意見提出者数と意見件数は一致しません。

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
1	全般	<p>・DXを推進するためには、それを実施する市役所内に市長をトップとしたしっかりした組織を作るとともに、そこで議論し考え、計画を策定し、自ら事業を実施、運用できることが重要。外部コンサルタント会社にはアドバイスをもらう程度にとどめておくのが良いのではないかと。</p>	<p>・令和4年4月にDXの推進を担う部署であるDX推進室を設置しました。</p> <p>・DX基本構想の策定に当たり、公募により選定した事業者に策定の支援を委託していますが、あくまで先進事例の情報提供やデザインの作成等支援に留まるものであり、構想には市で検討した内容を反映しています。</p>
2		<p>・現状の地域医療に関する問題点</p> <p>①オンライン診療が可能な医療機関が少ない。地域の医療機関の全部でオンライン診療ができる体制を作ってはいかがいか。</p> <p>②かかりつけ医から別の病院を紹介される場合に期待するのは、「このような症状に詳しい〇〇病院の〇〇先生に紹介状を書きます」ということ。現状の国内の医療現場では、医者同士のネットワークがほとんど構成されておらず、これが医療費高騰の一因になっている。地域の医師がオンラインで結ばれ、相互に相談し、オンラインで予約できる仕組みを作ってはいかがいか。</p> <p>③義理の母が近所の介護施設に入所していた際、体調に変化がある度に中央病院まで送り、入院するということを繰り返していた。介護施設と医療機関が連携し、オンライン診断を実施できる環境と、必要に応じて介護タクシーで入院までできる仕組みを作るべきでは。</p>	<p>・いただきましたご意見につきましては、DX基本計画の策定や、今後の事業推進の中で検討してまいります。</p>
3		<p>・DXの推進に当たり、年間どの程度の予算を見込んでいるか。</p>	<p>・DX推進の具体的な事業は、今年度策定するDX基本計画にて、費用対効果も踏まえながら検討する予定です。具体的な予算につきましても、実施事業と併せて検討してまいります。</p>
4		<p>・DX推進に当たり、必要な予算とそれに対する市の負担、その結果として、行政コストがどの程度削減されるのか、具体的な金額をお示しいただきたい。</p>	

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
5	全般	<p>・日本のIT業界は、大手企業を中心とした閉鎖的なシステム設計により世界に比べて遅れている。このようなIT業界の旧体制が改善されない中、どのような打開策を準備しているか。また、この状況下でDXを進めるのは時期尚早ではないか。</p>	<p>・国は、国民が自らのデータを必要なときに素早く利用できるようにするため、連携の基盤となる仕組み（データ連携基盤）の整備やデータのオープン化に対する支援を通じ、これまでの閉鎖的なシステム設計の解消と、データを相互に連携できるような仕組みの構築を検討しています。本市においてもこのような考え方の下で取組を進めてまいります。</p> <p>・本市は、この度、国家戦略特区である「デジタル田園健康特区」に岡山県吉備中央町、石川県加賀市とともに指定されました。この指定を、国からの支援のもとデジタル技術やデータを活用し、全国の地方都市のモデルとして地域が抱える課題の解決に先進的に取り組むことができるチャンスととらえ、DX推進に着手してまいりたいと考えています。</p>
6		<p>・「茅野市スーパーシティ構想」との関連性が分かりにくい。</p>	<p>・国の「スーパーシティ」構想に提案をしていた「茅野市スーパーシティ構想」は、「デジタル田園健康特区」として指定されることとなりましたが、これも本市のDX基本計画に基づくデータ連携基盤を活用するサービスの一つと考えています。具体的な内容は、今年度策定するDX基本計画でご説明させていただきます。</p>
7		<p>・構想策定に当たり、市民の合意形成が不十分ではないか。</p>	<p>・DX基本構想の策定につきましては、これまで茅野市地域創生総合戦略有識者会議やまちづくり懇談会、関係団体へのヒアリング等も踏まえ取り組んでまいりました。</p> <p>・今回、パブリックコメントでいただきましたご意見を踏まえ、構成や表現、図表の見直し、補足の説明を加えるなど、よりわかりやすい構想になるよう修正を行いました。引き続き市民の皆様のご理解をいただけるよう尽力してまいります。</p>
8		<p>・推進協議会自体の運営を、オンライン／オフラインでの開催や、議論にデジタルツールを活用するなど、DX志向で進めてほしい。</p>	<p>・会議の運営につきましても、これまでの対面での開催にとらわれず、DX志向で進められるよう取り組んでまいります。</p>

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
18	表記や表現等についてのご意見	<p>・課題と取り組みがマッチしていないのではないか。「特に若年層の人口流出」に対して「市に関わる人の力や国内外の知見、技術、感性などを広く取り込む」は直接的に結びつかない。また、行政運営のコストが高い原因を「市域が広く住居、拠点施設が点在していること」とするのであれば「行政運営の効率化」だけでは、おそらく疲弊するだけである。この点に、「市に関わる人の力や国内外の知見、技術、感性などを広く取り込み、茅野市の魅力向上や雇用を創出し、若年層の流出を止め、さらに流入につなげる取組」といった表記で記載してはいかがか。</p>	<p>・パブリックコメントで皆様からいただきましたご意見を踏まえ、構成や表現、図表の見直し、補足の説明を加えるなど、よりわかりやすい構想になるよう修正を行いました。今年度策定するDX基本計画においても、ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き市民の皆様のご理解をいただけるよう尽力してまいります。</p>
19		<p>・「市民活動におけるカーボンニュートラルや八ヶ岳西麓の環境保全の取組の加速」は、課題に定義がなく唐突感があり、DXとの関連が不明瞭。</p>	
20		<p>・DXにより強化する茅野市の強みとともに、解決する弱みを検討、記載する必要があるのではないか。</p>	
21		<p>・「茅野市のDXが目指すもの」に「新たな価値の創造ができる」と書かれているが、これが茅野市のDXの目的なのか。「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」も急に出てくる上、あいまいな言葉であるためわかりづらい。P6（基本理念）も含め、「茅野市のDXが目指すもの」をわかりやすく記載いただきたい。（P4（なぜDXが必要なのか）に記載されている「地域の担い手、働き手が不足」、行政運営のコストが高い」といった課題を解決するものになるのではないか。</p>	
22		<p>・デジタル機器を使うことがDXのようにとらえられる。</p>	
23		<p>・3要素は、見る者の多くがイメージを抱きやすい、優れた表現だと思う。一方で、それぞれの要素が内包すべき言葉（理念を説明する言葉）は、もう少し意識的に選択する必要があるのではないか。その上で、「やさしい」=《equity（公平・公正）》、「しなやか」=《diversity（多様性）》、「たくましい」=《inclusion（包含）》として明示することで、理念の方向性がより明快になるのではないか。また、その際は適切な日本語訳を付すことも望ましい。</p> <p>・また、P11も施策があり、あとで基本理念をあてがったように見える。上記のように基本理念を深掘りすれば施策の方向性が補強され、このページでの説明もより明快になるのではないか。</p>	

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
24	表記や表現等についてのご意見	・「未来型ゆい」という言葉がどのようなものか、イメージがつかめない。	・パブリックコメントで皆様からいただきましたご意見を踏まえ、構成や表現、図表の見直し、補足の説明を加えるなど、よりわかりやすい構想になるよう修正を行いました。今年度策定するDX基本計画においても、ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き市民の皆様のご理解をいただけるよう尽力してまいります。
25		・基本方針、基本施策、4つの柱、分野サービスのイメージに、それぞれ番号(①、②・・・)がふられているが、特にそれぞれの①と①が関連しているわけではないため混乱する。	
26		・内容は良いが、イラストの矢印の表現によってそれぞれの主体が離れていくように受け取れる。	
27		・「各現場へロボット、デジタル技術等を導入するなどサービスを高度化し、効率化する」 →「効率化」を《最適化》と言い換えられないか。	
28		・4つの施策を示す文章がなにを実現させるのかが読み取れない。これまでデジタル機器の活用のイメージがある中で、あたたかな福祉とDXがイメージできない。丁寧な医療と大胆な省力化、合理化が相反するよう感じる。他の施策も抽象的。	
29		・この内容では「地域力の向上」ではなく、「福祉と医療の充実」ではないか。「全ての市民が安心して充実した市民生活を送れるよう、DXが適切なサポートをし、地域の力の源である市民のみならず行政が「人を思いやる心」を守り、高めます」といった趣旨の説明文にしてはいかがか。 ・以下の施策も次のように修正してはいかがか。 「(前略) 大胆な省力化、合理化を含めた改善を進めます。」 「人権を保障するしくみに則った安全なデータベースが(後略)」 「子どもたち一人ひとりの個性と創造力を伸ばすための教育を実践します。同時に、DXの活用で教職員の業務負荷軽減、保護者及び地域との連携を高めることで、教育環境の質の向上を目指します」	
30		・3番目の「国内外の新たな感性を取り入れ 市民の創造性の向上と地域文化の昇華につなげます」は13ページ「市民力の発揮」の一部、4番目の「茅野市に興味や関心を持つ人をひきつけ 訪れる人、地域と関わる人の獲得や移住の拡大を図ります」は12ページ「地域力の向上」の一部ではないか。「産業力の強化」ではないのでは。	
31		・「国内外の～」と記載されているが、まずは「市内外の」にしてはいかがか。	

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
32	表記や表現等についてのご意見	・対象領域が3つ記載されているが、前述の施策の3つとどのような関わりとなっているのかを明確にしてほしい。	・パブリックコメントで皆様からいただきましたご意見を踏まえ、構成や表現、図表の見直し、補足の説明を加えるなど、よりわかりやすい構想になるよう修正を行いました。今年度策定するDX基本計画においても、ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き市民の皆様のご理解をいただけるよう尽力してまいります。
33		・政府のDX戦略のもと、“DX”の言葉が使われるのは理解できるが、「デジタル・トランスフォーメーション」と言われて、その意味を理解できる市民は少ないため、具体的な施策に置いては、極力“DX”を使うべきではない。例えば15ページは、「市民の暮らしやすさを向上させる仕組み」で十分である。	
34		・「教育の高度化・最適化」としてはいかがか。	
35		・「ルールづくり」と「データ連携」の両分野の最底辺で担保されるべき事柄は、《人権の保障》（自己情報コントロール権／プライバシー権）だと考える。その上で、次のとおり文言を追加してはいかがか。 ・「ルールづくり：市民が安心してDXの取組に参加できるよう、国や国際的な団体が提唱するルールを参考に、人権に最大限配慮した、茅野市のルールを策定します。」 「データ連携：市民が自らの必要なデータを必要なときに、正しく素早く利用できるように、また市民自らがいつでもそのデータを確認し、コントロールできるように、オープンで安全なデータ連携基盤を整備します。」	
36		・次のとおり説明文を修正してはいかがか。「市民が安心してDXの取組に参加できるよう、国や国際的な団体が提唱するルールを参考に、外部の脅威から市民を守るとともに、人権に最大限配慮した、オンラインコミュニティにおける倫理を堅持するためのルールを市民とともに策定し、堅持します。」	
37	・次のとおり説明文を修正してはいかがか。 例：「（前略）市民の不安を解消し、目的を共有しながら安心してDXの取組に参加いただけるよう、茅野市が長年培ってきた「パートナーシップのまちづくり」を継続・深化させながら、意見交換が行える場の提供や（後略）」		

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
38	表記や表現等についてのご意見	・「希望する全ての市民が必要とする知識や技術を身につけられるよう、様々な場を提供します。」と記載されているが、本当にこのようなことが可能なのか。また、市の負担で行うと理解してよろしいか。	・パブリックコメントで皆様からいただきましたご意見を踏まえ、構成や表現、図表の見直し、補足の説明を加えるなど、よりわかりやすい構想になるよう修正を行いました。今年度策定するDX基本計画においても、ご意見の趣旨を踏まえ、引き続き市民の皆様のご理解をいただけるよう尽力してまいります。
39		・「DXに参加しない人に寛容で平等な社会づくり」という記述は、《DXがもたらす各種サービスに（受益者自らの意志で）オプトインできるかどうか》という課題と取り違えているのではないか。本来、全ての市民がその《変革》によって一様に恩恵を享受できるよう設計すべきであり、デジタル／アナログどちらの《変革》もありうるため、「DXに参加しない人」は原理的に存在しない。この記述は認識の誤りと考えられるので削除してほしい。代わりに「情報機器を使用しない人でもDXの恩恵を享受できるよう、不断の改善をする」として変更してはいかがか。	
40		・デジタル化、デジタルライゼーション、エコシステム等、デジタルに関わる用語や意味を「やさしく」共有していくべきではないか。	
41		・「ワクチン問診アプリ」、「教育保育現場における親子の連携強化」における「訪れる人」、「関わる人」のメリットをお示しいただきたい。	
42		・説明文を「地域の様々な属性の人々が一体となった」と変更してほしい。また、肩書きのない市民の参加や男女のバランスを考慮いただきたい。併せて、協議会もオープンに運営いただきたい	
43		・「有識者・アドバイザー」は、「有識者・専門家・アドバイザー」とした上で、協議会全体に対して双方向の矢印を付けて図示してはいかがか。	
44		・DXを支える柱の記載が3つになっており、これまでの記載との整合性をわかりやすく示してほしい。	

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
45	安全性等についてのご意見	・企業も関わる中で、個人情報を含めたすべてのデータが共有されることへの不安を感じる。	<p>・個人情報の取扱いにつきましては、今後策定するDX基本計画でその方針をお示しするとともに、個々の事業を構築する際には、情報の提供や意見交換の場、学びの場の設置を通じ、市民の方の不安を解消できるよう取り組んでまいります。</p> <p>・システム面において、あらかじめ想定しうる安全対策を講じるとともに、外部からの攻撃に備え、また、参画する企業等も含め、情報が適切に管理されるようなルールを策定し、安全な取組となるよう検討してまいります。</p>
46		・システムエラーが発生した場合、税金を投入した責任はどのようにとるのか。	
47		・データ利用者が、どのデータを、どのような基準で、どこまで利用できるのかを具体的に示してほしい。また、不適切な利用をした場合の罰則規定等も含め、どの時点で具体的な内容が明示されるのか、時期も含めて明らかにしてほしい。	
48		・扱うデータの棚卸を行い、秘密性があるものとそうでないものを明確にすべきではないか。	

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
49	具体的なサービスやシステム構築等についてのご意見	・システムのもっとも重要なポイントの一つは、ユーザ視点での使い勝手である。システムを使うのは一般市民であり、システム開発段階でユーザ視点での検証を十分に行なってもらいたい。	・具体的なサービスやそれを提供するためのシステムの構築及びその進め方等につきましては、パブリックコメントで皆様からいただきましたご意見を踏まえ、今後、策定する基本計画等で検討の上具体化し、事業を実施してまいりたいと考えています。サービス設計やシステム構築に当たりましては、ユーザ視点での使い勝手やプロジェクトのターゲット、費用対効果、スケジュール管理、DXを推進するための組織のあり方等も含めて検討するとともに、取組を広く周知し、市民等からのご意見をDXの取組に活かすための仕組みについても併せて検討してまいります。
50		・DXの推進のために重要なことは、「目指すべきこと」「問題」「課題」をいかに市民等に共有できるか。そのために、このプロジェクトの参加者を広く募集し、見える化した上で、プロジェクトマネジメントを行うことだと考える。	
51		・取組内容を積極的にアピールし公開してほしい。例えば市役所内の全課がYouTubeを活用し、自分たちの活動を毎日紹介するくらいの勢いで「茅野市DX基本構想(案)」や「デジタル田園健康特区基本構想」をアピールしていただきたい。いろいろな意見が出てこないのは理解がされていない証拠ではないか。市民の認識・理解・支持なくして構想は成功しないと考えるなら自らの考えを積極的にアピールして情報を秘匿せず公開していただきたい。	
52		・「“未来型ゆい”によるつながりの拡大」と「一人ひとりに合わせたサービスの実現」だけでなく、「DXを加速化させる組織面での取り組み」や「費用対効果の明確化」、「スケジュール管理の徹底」といったDX推進面での考慮すべき事項も明確にする必要がある。	
53		・DXの進捗を積極的に公開することと、マイルストーンを置くことが重要ではないか。	
54		・「「住む人」の利便性向上を軸に、「訪れる人」や「関わる人」の力を活用できる方法」もちろん書き方としてはそうなるが、それぞれの主体の、それぞれの利便性向上を目指していただきたい。	
55	・「住む人、訪れる人、関わる人」と表現され区分されているが、住民の比重がその他2つより少なく感じ、誰に向けた取組なのか疑問を感じる。		
56	・豊平・泉野線デマンドバスの廃止にともない、三井の森やチェルトの森の公共交通機関がなくなってしまう。構想案に記載された市民のメリット「生活の足が守られる」、訪れる人の「別荘地などでの移動が便利になる」の内容と異なるのではないか。	・「のらぎあ」運行は、日中生活路線バスの運行範囲と同じエリア設定を行っており、豊平・泉野線デマンドバスの運行先である三井の森とチェルトの森の管理事務所につきましても、「のらぎあ」の特定地点として運行先に含めるよう設定しています。なお、公共交通の確保については、引き続き新公共交通検討会議にて最適な手段を検討してまいります。	

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
57	具体的なサービスやシステム構築等についてのご意見	<p>・DX推進の結果、ネットワークの運用費用などの行政コストのみが上昇し、利用する人（恩恵を受ける人）が限られ、数年して、見直しや廃止の議論が起こるのは、過去の例からしても十分に想像が付く。行政も取り組みの成果がでなければ、結局疲弊、衰退が加速するだけである。このため目標には、必ず以下のような数値目標を入れるべきである。</p> <p>①行政コストのx x %削減 ②医療費、介護費のx x %削減 ③居住者のx x %増加</p>	<p>・具体的なサービスやそれを提供するためのシステムの構築及びその進め方等につきましては、パブリックコメントで皆様からいただきましたご意見を踏まえ、今後、策定する基本計画等で検討の上具体化し、事業を実施してまいりたいと考えています。サービス設計やシステム構築に当たりましては、ユーザ視点での使い勝手やプロジェクトのターゲット、費用対効果、スケジュール管理、DXを推進するための組織のあり方等も含めて検討するとともに、取組を広く周知し、市民等からのご意見をDXの取組に活かすための仕組みについても併せて検討してまいります。</p>
58		<p>・4つの柱について、住民の意見をどのように集め、反映させていくのかを記載してほしい。②参加の促進についても、デジタル機器を扱えるようにするという参加ではなく、本当に必要なもの、便利なものを作るための話し合いやそのための市民の意見の集約が重要と考える。DXは生活をより良くするもの（2ページ）ということは、すべての人に当てはまるもの。機器を使いこなすことと生活をよりよくすることはイコールではない。</p>	
59		<p>・18ページの参加の促進や19ページの学びの中の市民の学びなどで向上された市民からの意見を即時に取り上げる体制をデジタル技術でやることを追加してほしい。</p>	
60		<p>・行政の改革・効率化としてのDXの取り組みが弱いのでは。行政手続きのオンライン化のみが例示されているが他にもできること、行うべきことは多数存在するように思える。</p>	
61		<p>・「子どもたち一人ひとりの個性と創造力を伸ばすための教育を実践します」と記載されているが、具体的に子どもたちの教育にどのような変化が起こるのかお示しいただきたい。</p>	
62		<p>・「教育の高度化」とは具体的にどのような内容か。また、「こども・親を中心とした連携体制の構築」とは何と何が連携するのか。</p>	
63		<p>・ニーズ・シーズからいきなりロボット・デジタル化への移行するのは極端ではないか。</p>	
64		<p>・学びの場の提供だけではなく、インフラ整備（山岳地域・別荘地帯や災害時、停電時の対応含む）、インターフェイスの改善、所得格差における環境や参加機会も改善しなければ、デジタルデバイド対策にはならないのではないか。</p>	

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
65	推進体制についてのご意見	・それぞれのDXが重なるようなワーキンググループがないと、個別最適のみ行われてしまい全体最適化が実現しない。多くのステークホルダーに対してDXを浸透させるためには、全体を俯瞰することが重要。	・データ連携基盤を導入することにより、システム面での全体最適のベースを構築するとともに、推進組織（協議会等）を設け、全体の仕組みと運用状況を検討、確認してまいります。また、推進組織の中には、全体を俯瞰する「アーキテクト」という役職を設け、ワーキンググループ間の連携を図りながら運営してまいりたいと考えています。
66		・ルール作りに当たっては、デジタル時代の法規の専門家からのアドバイスが必要ではないか。	・今後策定するDX基本計画では、DXの取組を「市民目線」で考え、DXの取組を主体的に推進するため、地域の様々な属性の人々が一体となった組織の構築を具体的に検討するとともに、市議会等とも連携しながら、市民がDXの取組を評価し、意見ができる仕組みを検討してまいります
67		・運営委員会に、ITリテラシーの高い、プライバシーや個人情報保護の法律の専門家等を入れて欲しい。推進協議会と利害関係にない第三者による監査をして欲しい。	・また、DXの推進は、安全性の担保や効果を最大限に発揮するために専門的な知見が必要であることから、専門的な人材や団体による支援や参画を受けながら推進できる体制を構築してまいります。
68		・システム構築等が可能な専門家は何名程度関わるのか。	
69		・新たに構築するシステムや発生する費用が適正か否かの判断を監査する仕組みを作って欲しい。	
70		・市議会がより良い形で関わるようにしてほしい。	
71		・イメージ図の中の協議会会員代表者は、各パートナーシップ団体や地区コミュニティなども含まれるのか。様々な関係者が記載されているが、具体的に市民なのか、どういった人なのかを明確化してほしい。市民が組織の中に参画したり、評価や意見ができる体制はどのように担保されるのか。	
72		・どのようなプロセスで推進され、実行されるのかがイメージしにくい。ため、もう少し意志決定のフロー（流れ）を具体的に表現した改善をしてほしい。	
73		・日本はDXの分野においては後進国であり、先駆者の事例を学ぶ機会が必要ではないか。また、技術のみならず、ITコーディネータなど、正しくマネジメントできるDX人材の育成も併せて行うべきでは。	・庁内や市内においてDXを主体的に進めるDX人材の育成につきましては、国内外の先駆的な事例や先進的な知見を取り入れながら県内自治体や公立諏訪東京理科大学や信州大学等の地元大学と連携し、取り組んでまいります。

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
74	推進体制についてのご意見	・新サービスや新産業は市内からではなく訪れる人からもたらされるものなのか、地元住民や地元産業、企業を育てることが見えない。	・市内や市内においてDXを主体的に進めるDX人材の育成につきましては、国内外の先駆的な事例や先進的な知見を取り入れながら県内自治体や公立諏訪東京理科大学や信州大学等の地元大学と連携し、取り組んでまいります。
75		・運営側のIT関係の人材育成と確保に力を入れて欲しい。専門性が高い内容であり、特に運営側に専門知識と経験を積んだ人材が必要。市役所内の各分野においてDXに対応した人材を配置し、全体の底上げをして欲しい。	
76		・現状の案では、「大学」の記述が見えないが、地域の大学を活用し、計画案作成への参加、システム開発への協力、市民講座開設を行うなど、産学官連携で取り組むべきである。	